

図版①「やや拡大」

楊峴題跋

吳昌碩題簽

漢故穀城長蕩陰令張君表頌

光緒十五年早秋七月昌碩吳俊題記

種

蕩陰令 張君 通州人子貞太守青浦沉
 均初內翰皆有宗氏不復膺請。遇沈斧并有
 謂而峴少以人重沈。辟贈碑也。因蓋山人乞
 黃川松司馬陽光德仰慕志贈。又徐潤而司
 馬曾沈辟重拓此拓不遠。仰沈而斧紙
 毛有古色。斷書。固初舊拓。在今
 已不多見。首考。

唐石歌得寶矣已丑九月楊峴題

楊峴

碑法帖拓本の題記・③

「張遷碑・呉昌碩旧藏本」

図版② 張遷碑（部分）



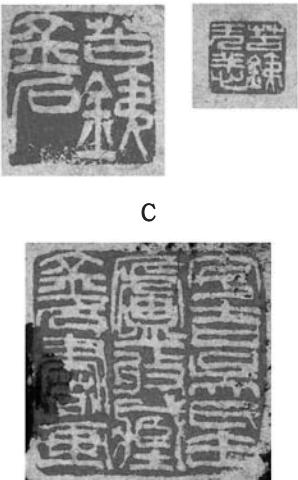
図版③ 吳昌碩の私字



B

A

図版④ 吳昌碩鑑藏印



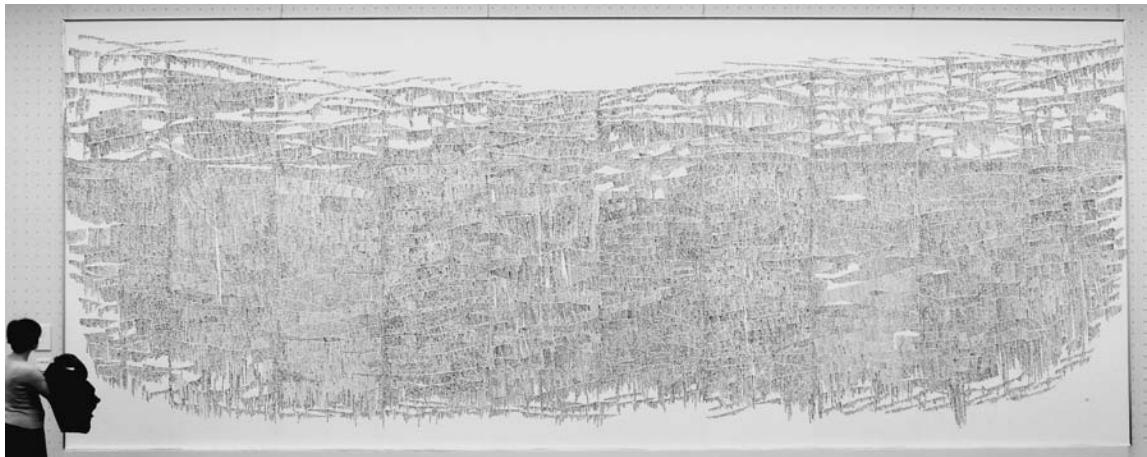
この欄に関するご批評、ご意見、ご希望、ご質問などをお聞かせください。私宛に直接メールで、また編集部宛にお送りいただければ幸いです。

伊藤 滋 メールアドレス mokkei@galaxy.ocn.ne.jp

漢の張遷碑は、現在も泰廟に碑が保存されている。この碑の優れた拓本は非常に得難い。最も有名な最旧最佳拓本とされるものに北京故宮博物院所蔵のものが知られる。（一玄社からカラーフジ印されているが、私は、「最旧最佳拓本」とすることに疑問を抱き、過去にこの問題を発表している。）今回取り上げたのは、清末民国期の中国の偉大な文人であり、書画、篆刻に秀でた吳昌碩（1844～1927年）である。吳昌碩は俊卿、字は昌碩、倉碩、号は缶廬、苦鐵などと称した。）の旧藏拓本である。題簽には、「漢故穀城長湯陰令張君表頌光緒十五年己丑秋七月昌碩吳俊題記」とあり、「俊」字の小さな印が押されている。書かれた紀年から吳昌碩四十代の中頃の若い頃の書である。右肩上

がりの端正な楷書であり、本文中には吳昌碩の自藏本であることを示す鑑藏印（「苦鐵無恙」「苦鐵金石」「安吉吳氏缶廬收藏金石書畫」自刻の白文印 図④）が押されている。また本文の拓本の文字が破損して見がたい部分には、朱筆で小さい私字を書き入れている（図③）。吳昌碩が、晩年に人の依頼で題簽、題記、題跋を書いたものは多く見ることが出来るが、このような若い頃の家藏本に書いたものは非常に珍しい。卷末には、吳昌碩の師友である楊峴（1819～1896字は見山、号は季仇、庸齋、藐翁などと称した。）が彼の為に書いた跋文があり、吳昌碩の題簽と同年である。晩年の楊峴独特的右肩上がりの直線を生かした行書体である。跋文の後半で、楊峴はこの拓本が、清朝初期の旧拓本であり、吳昌碩が素晴らしいものを得たと述べていて、稍褒めすぎであり、清朝後期の拓であろう。

書道芸術院 平成の群像 (2013)



TOKYO 書 2013 公募団体のいま

思い出すことを躊躇いながら、忘れることが決して出来ない日、2011年3月11日から早くも2年以上が過ぎた。芸術家は何かの契機に触発され作品を制作する。ピカソがスペイン内戦で無差別攻撃を受けた都市ゲルニカにより戦争の悲惨さを訴えたのがその代表であるが、我がふるさと石巻も東日本大震災により大きな被害を受けた。その衝撃を何かの形で作品に仕上げなければならないという使命感を持ち、2011年5月の北井企画（東京）での個展をはじめとして、以降は「鎮魂と復活」をテーマに作品を発表している。その大きな発表の機会が巡ってきた。

TOKYO 書 2013 「鎮魂と復活」がそれであった。この企画展の話があったのは一年前の11月頃である。それも一人高さ5メートル横10メートルの壁面

で、2年間の想いを詠じて、ついに完成した。しかし、どうも納得いかない。中堅クラスの作家となるとさすがに緊張もあったが、大作で表現したいイメージはもう出来上がっていた。

「黒い壁を書こう」と思った津波の黒い壁、おびただしい瓦礫、押し寄せる波、無数の叫び、悲しみそれを表現したかった。

震災から1か月分の新聞、それを1月1日から11月半ばの提出まで書き続けた。書けども書けども終わらない作業は写経を書いている祈りのイメージであり、終わらない瓦礫の処理作業でもあったか。

私自身も実際に全貌を見たのは東京都美術館で組み立ててからである。大作は10年前の個展の時、10メートルの作品は7点書いているが、その作品もすべて3・11の大津波すべて海に呑み込まれ灰塵と帰している。

一つの作品が終わるとまた次の作品へと取りかかる。作品を制作することすべて3・11の大津波すべて海に呑み込まれ灰塵と帰している。



千葉蒼玄

書のひろば

理事長 辻 元 大雲

第65回毎日書道展搬入・鑑別へ

5月10日～13日に搬入完了。64回展より微減（257点減）であったが31050点と31000点台を確保した。本年から出品料の減免措置が終了したことと影響したと思われるが、このくらいの微減で収まつてよかったですといえる。

各部により差があり、刻字部・大字書部では増加しているほかは軒並み減少した。書道芸術院全体でも昨年比68点減の2020点となつたが2千点台を維持したことによし安堵した思いである。

5月24日～26日にかけ公募作品の未表装による鑑別が篆刻、刻字を除いて行われ、U23を含め入選落選が決定する。入選率は50%で変わらないが6月の審査では会友作品を含め入賞が決定する。記念展のため入賞枠は各賞一割増となる。入落決定通知は6月中旬に行われる予定。

毎日書道展表彰式と同日開催予定。

会場 前回と同じ芝パークホテル
会費 7000円（申込7月10日まで）
詳細は別紙ご案内参照

年も発行されることになり、10名の揮毫作家が決定し本院小伏竹村顧問が選考された。切手の発行は例年通り11月中旬、今回は年賀はがきと同時発売が予定されている。ご期待頂きたい。

「書の美」東博島谷弘幸著 出版へ

毎週毎日新聞日曜版でおなじみの「書の美」がこのほど毎日新聞社から単行本として出版されることになった。日本国内に所蔵されている書の名品について、実物を最もよく手に取ってみている博物館の専門家が、その書の魅力、更に鑑賞のポイントについて分かりやすく解説している。そして、広く書道を愛好、学ぶ人たちのお手本としての機能も持たせ、入門・啓蒙書の性質も有するものとして写真図版を出来るだけ大きく掲載する内容である。

〔判型 体裁〕B5版 ソフトカバー

〔頁数〕約160頁

〔価格〕2415円（税込み）

〔発行日〕25年7月

*特別割引 2割引（1932円・税込み）
期間6月末日までに毎日書道会（糸賀専務理事）あて申込みに限る。

10冊以上送料無料の予定。

TEL 03-3212-2918
FAX 03-3212-2914

全日本書道連盟夏期書道大学講座

恒例の全日本書道連盟主催夏期書道

大学講座が本年も開催される。普段直

接ご指導いただけない連盟役員による講座は評判高く、講習内容も書道全般にわたっており、是非この機会を活用していただきたい。

毎日書道展の特別企画展は今回で7回目の開催となる。今回は65回記念として、毎日展創設に大きく寄与された「手島右卿の書芸術＝その世界性」現代書としての小字数書部の開拓のパフォーマンス手島右卿先生の書業を取り上げる。先生の代表作「山行」「背山臨滄」「抱牛」「崩壊」をはじめ43点の作品と併せて臨書作品（半紙・折帖）などが4期に分けて展示される。展示は第1章「右卿芸術への招待」、第2章「青春の旅立ち」、第3章「新古典派の時代」、第4章「象書の世界」、第5章「境涯の書」の構成で、国立新美術館一棟に広々と展開する。

*受講料
3日間会員10000円（会員外15000円）
1日受講5000円（会員外7000円）
*申込・要項希望 全日本書道連盟
TEL 03-5294-1371
FAX 03-5294-1372

第28回毎日書道研修団派遣

毎日書道展会員賞・毎日賞受賞者より選抜して中国への研修旅行団派遣事業は本年28回目を迎える。前回は昨年10月に行う予定が諸般の事情から延期され、本年3月に実施された。本院からは近代詩文書部で会員賞を受賞された佐久間幸扇さんが参加、班長として大活躍された。

本年は団長に毎日書道会総務の日本書道美術院鬼頭墨峻氏が就任、副団長に書燈社宮本博志氏が内定している。第65回毎日書道展の受賞者より団員が選抜される予定。

第65回毎日展特別企画展 「手島右卿の書芸術＝その世界性」

毎日書道展の特別企画展は今回で7回目の開催となる。今回は65回記念として、毎日展創設に大きく寄与された

「小林抱牛遺作展」

なお、会場の管理上国立近代美術館所蔵の「抱牛」作品は陶板焼き付けによる複製が展示されるが、同時に左記の上野の森美術館で開催される「小林抱牛遺作展」に本物が展出されることになった。

「小林抱牛遺作展」

会期 7月17日（水）～23日（火）

会場 上野の森美術館

主催 每日新聞社・毎日書道会
* 東京都美術館での毎日書道展（7月17日～23日）と同会期

是非ご高覧頂きたい。

丑年特別切手 小伏竹村顧問揮毫

2014年新春に向け恒例の干支切手が本

年特別切手

大学講座が本年も開催される。普段直

漢字(三)

佐藤菜扇



第66回書道芸術院展「查撰句」

詩鴻寒雁寄
夢向野鷗尋

佐藤菜扇書

落款の書き方についても幾つかの形式があります。

一・上下聯共に一行聯の場合

○比較的簡単な「短款」の場合は一般に行に書きます。私は主にこの形式で作品を書いています。

○やや長い「長款」の場合は一行に分けて上聯に下聯の外側に書きます。

※上聯に年月、聯語の典拠などを書き、下聯に姓名・雅号を書きます。

※更に長い長款(數十字)の場合は上聯の右側上部から書き始め、続いて上聯の左側へ移り二行目を書き、更に下聯の右側に三行目を書き続いて左側に四行目を書いて終わります。

二・特殊聯(龍門対と琴対)の場合

○龍門対の聯語は比較的長く、上下聯共に数行に書きます。この時、上聯は右から左へと書き、下聯は反対に左から右へと書きます。

落款は上下聯共に最終行の下の余白に入れます。

○琴対の聯語は比較的短く、上下聯共に一行に書き下部に大きな余白を残しておきます。

その余白に落款を書きます。年月日、場所、自分の姓号だけの短款の場合は上聯に年月日、場所を書き下聯に名号を書きます。長款の場合は上聯から書き始め、右から左へと進み下聯に至って終わります。

現代詩文書(三)

大平邑峰

21世紀の書

—私の主張—



大平邑峰書

写真は、平成19年書道芸術院展作品

折り合いのつけ方にについては結論を出せていませんが、その素材の持つ詩情や雰囲気を損なうことにはだけはないよう心掛けています。素材と書き手の思いがうまくマッチしての視覚的表现が、相乗効果によって観る人の心を動かすことができると思います。

自身の詩文書作品を書く動機として、大きくて二つの場合があります。自分にとって共感できる良い素材(詩文)に出会ったとき、これを書表現したいと思って筆をとる場合、先に書きたい(または所定の)表現様式があつて、それに合う素材を選んで筆をとる場合です。

いずれにしても素材は大切にしたいし、ある程度こだわったりもしています。しかしながら、素材が持つ個性が強い場合や様式には

合う(字数や漢字と平仮名のバランスなど)が自分の心情に合いませんが、自分の心情に合わない(どうしても解き難いなど)、どちらかといふ作品にならないこともあります。素材の持つ魅力と自分の思いや都合とどのように折り合いをつけるかが難しいところで、書作上苦しみでもあり楽しみなところもあります。その点では、自分の場合、どちらかといふ失敗の方が多かったのではないかと思っています。

毎日書道展 第65回記念 每日現代書巡回展

捨
(シャ)

恩地春洋書



64.5×70cm

静岡展 2013年3月26日(火)～4月3日(水) 静岡県立美術館
 神奈川展 2013年4月6日(土)～14日(日) そごう美術館
 豊岡展 2013年5月17日(金)～19日(日) 城崎大会議館
 群馬展 2013年8月2日(金)～7日(水) 高崎シティギャラリー
 青森展 2013年9月21日(土)～29日(日) 青森県立美術館
 長崎展 2013年10月8日(火)～13日(日) 長崎県立美術館
 帯広展 2013年11月21日(木)～26日(火) 帯広市民ギャラリー
 春日井展 2014年1月18日(土)～26日(日)

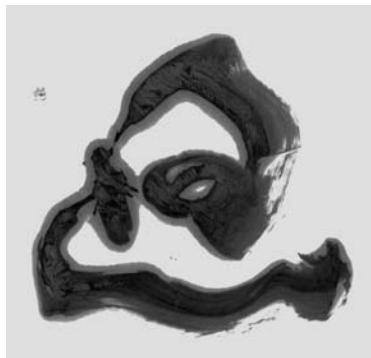
文化フォーラム春日井、春日井市役所10階
 高松展 2014年1月29日(水)～2月2日(日) 高松市美術館
 岡山展 2014年3月18日(火)～23日(日) 岡山県天神山文化プラザ

心の中の神秘 内田百閒
小竹石雲書



88×86cm

迴(ケイ はるか)
大野祥雲書



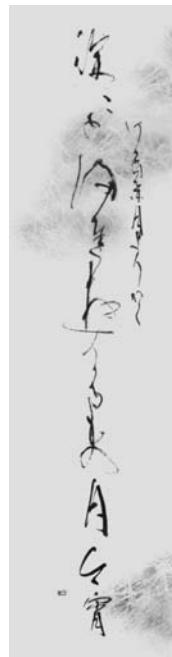
91×91cm

3・11鎮魂(レクイエム)
(レクイエム)



千葉蒼玄書

月 稲畠汀子



下谷洋子書

136.5×35cm

若水の 片山由美子



辻元大雲書

139×35cm

特別研究部臨書課題

II (毎日展公募サイズ以内・縦横自由) 左記の掲載以外も可

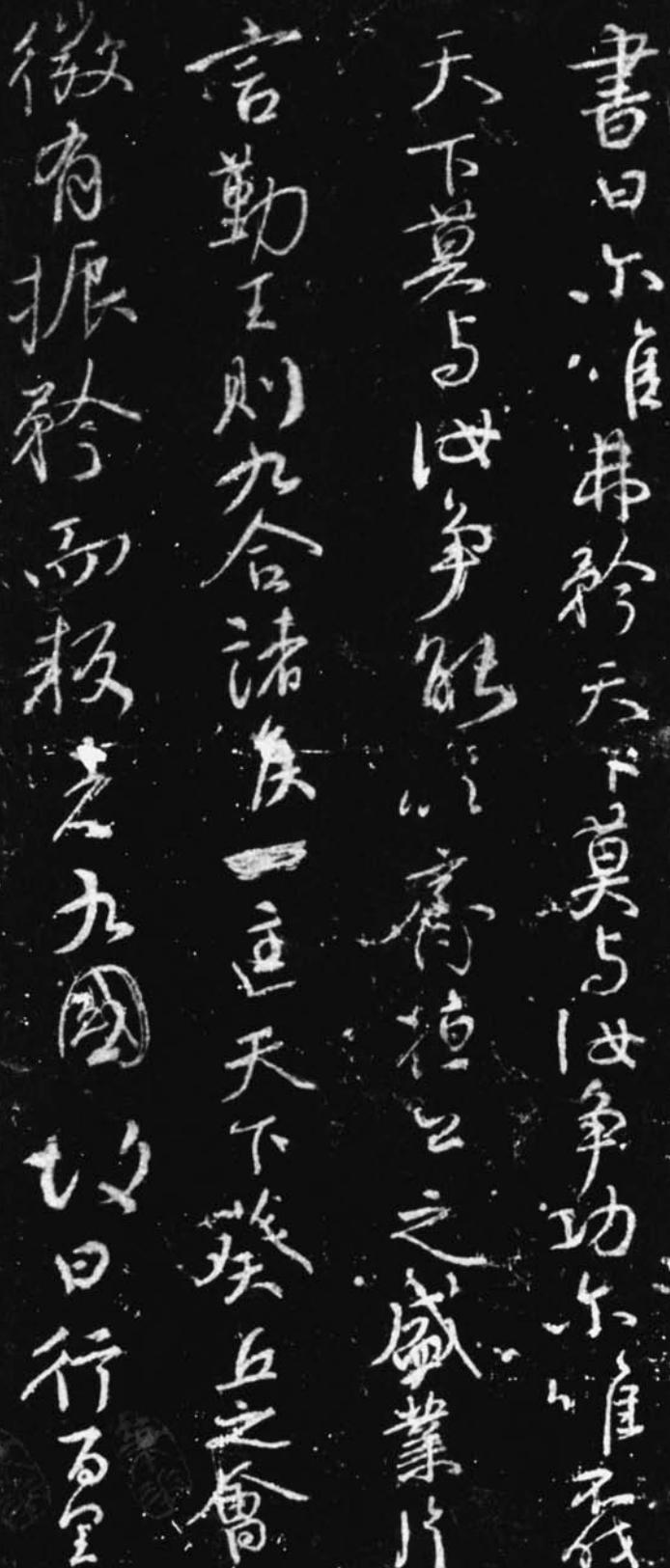
用紙 半紙普通判
左の法帖の中から
何文字臨書してもよい。
(掲載部分以外は不可)

〈解説〉 臨書する際には、眞跡のない争座位稿のことなので拓本でしか見ることができない。しかし、その文字を様々な角度から徹底して観察し、まず書いてみることである。初めは掴み難いのだが、自然に目が慣れてくる。

争座位稿は、技法だけでは書きえない。頗真卿は、名門の出であるが貧しく、苦学をした。質素な家で暮らし、雨漏りの痕を見て書

法を悟ったという話もある。博学で辞讓。剛直でもって貫かれ、伝統を重んじた。自分の意に沿わぬことは断固反発した。ゆえに上官とも合わず、左遷されることもある。愛国心のために身を捨て、忠誠を尽くし、人間として尊敬されている。このような人物が書いた「率意の書」(あらかじめ用意せずに作意なく筆をとって書かれた書)に近づくためには人格形成が必要であろう。

(編集部)

※落款を必ず入れる
署名、もしくは
○○臨
(押印のみも可)

(80%縮小)

書曰。爾唯弗矜。天下莫與汝爭功。爾唯不伐。天下莫與汝爭能。以齊桓公之盛業。片言勤王。則九合諸侯。一匡天下。葵丘之會。微有振矜。而叛者九國。故曰。行百里。

かな研究部

関戸本古今集（伝藤原行成）③

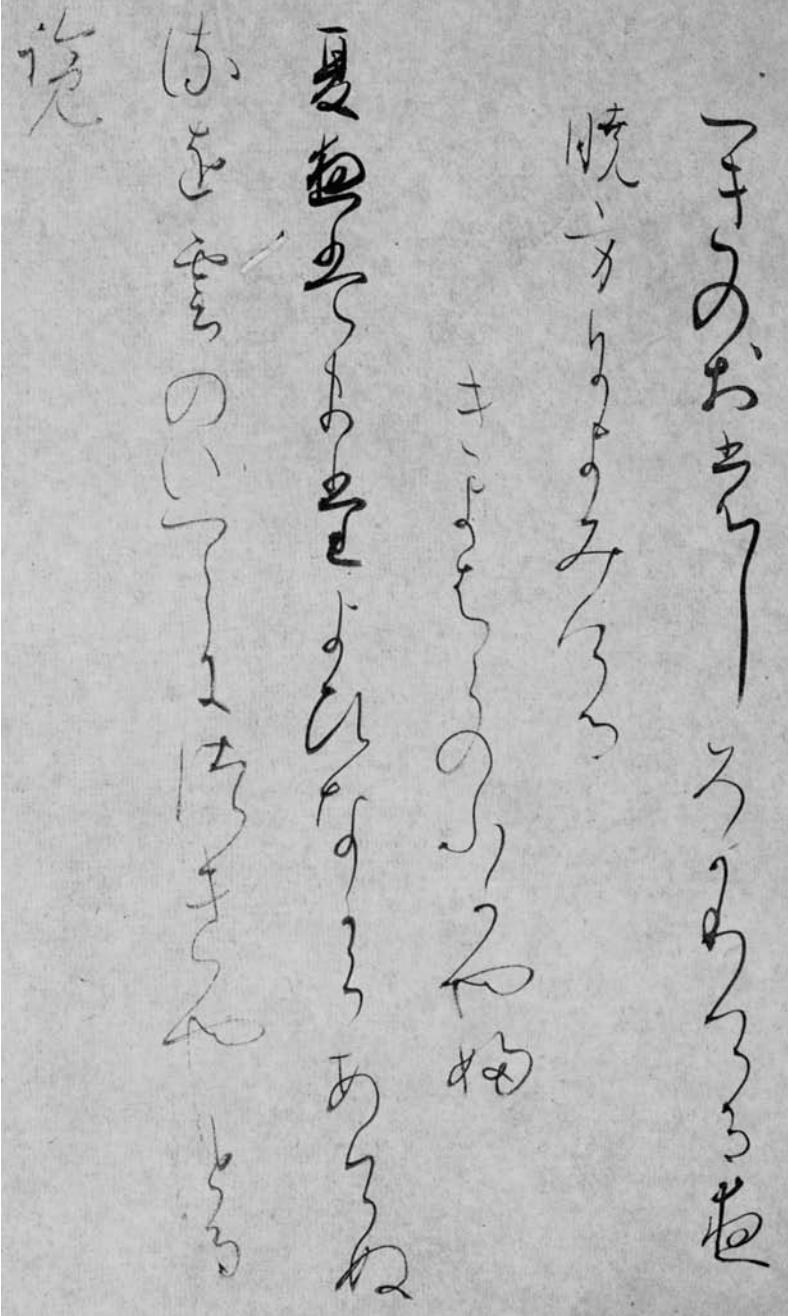
特別研究部臨書課題

毎日展公募サイズ以内・縦横自由
左記の掲載以外も可

〈よみ〉
 つきのおもしろかりける夜
 晓方によみける
 夏夜はまだよひながらあけぬ
 観るを雲のいづこにつきやどる

〈解説〉 関戸本古今集の用筆は、逆筆、順筆、直筆、側筆と多面的で、ある時はぼってりと大らかに、ある時は繊細にと抑揚と粘りの変化が著しい。
 連綿では、右回転のダイナミックな連綿線に特徴があり、連綿線の長短の変化や意連も多く用いられている。字形は、極端な奇異な文字はないが、かなりデフォルメされたものもあり、ただ文字の組み合わせが巧みなため全体としてはよく整つて見える。（編集部）

(90%縮小)



=注= かな研究部競書作品は、左の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)

- 落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨（押印のみも可）

- 用紙は半紙普通判（料紙可）〈たて長に使用〉

別紙を裁断して貼付も可。

半懐紙は、半紙サイズに切って使用のこと。

習い方解説 (三)

小竹石雲

聲和流水深
(良實)
(聲は流水に和して深し)

66回展の期間中、東博で「王羲之」展を参観し、感激し王羲之の書風で書いてみました。

筆路を明確にし、品位を持たせるように書いてみました。
筆線に輝きを持たせるようになりますため、力まず、落着いて運筆しました。

字形も極力デフォルメしすぎないような草書体で書いてみました。

左記の参考例は発展的表現
羲之の尺牘の連綿部分を取り入れてみました。最初の連綿は直線で次は曲線で、最後は渴筆にしてみました。



書体=自由



聲和流水深 よみ(聲は流水に和して深し)

習い方解説(三)

東福青筆

閑情淡遠
(徐觀海)

(徐觀海)



書体＝楷書

閑かなる情意が淡白であるが浅
はかではないの意です。
今日は初唐の三大家の一人であ
る、褚遂良の雁塔聖教序を参考に
書作を致しました。
雁塔聖教序は変化に富んだ多彩
な線質で書かれている美しい書で
す。
筆端まで神経が行きとどき、筆
鋒の弾力によって生まれる強靭な
線です。
ピリッとした細線の強さだけで
はなく、棲が広くゆったりとして
いて、非常に情感もあり華麗です。
点画の抑揚(太細)の変化とリ
ズムを大切に、少しでも近づける
よう工夫してみましょ。

かな規定 初段以上【七月十五日締めきり】用紙 半紙普通判(料紙可)

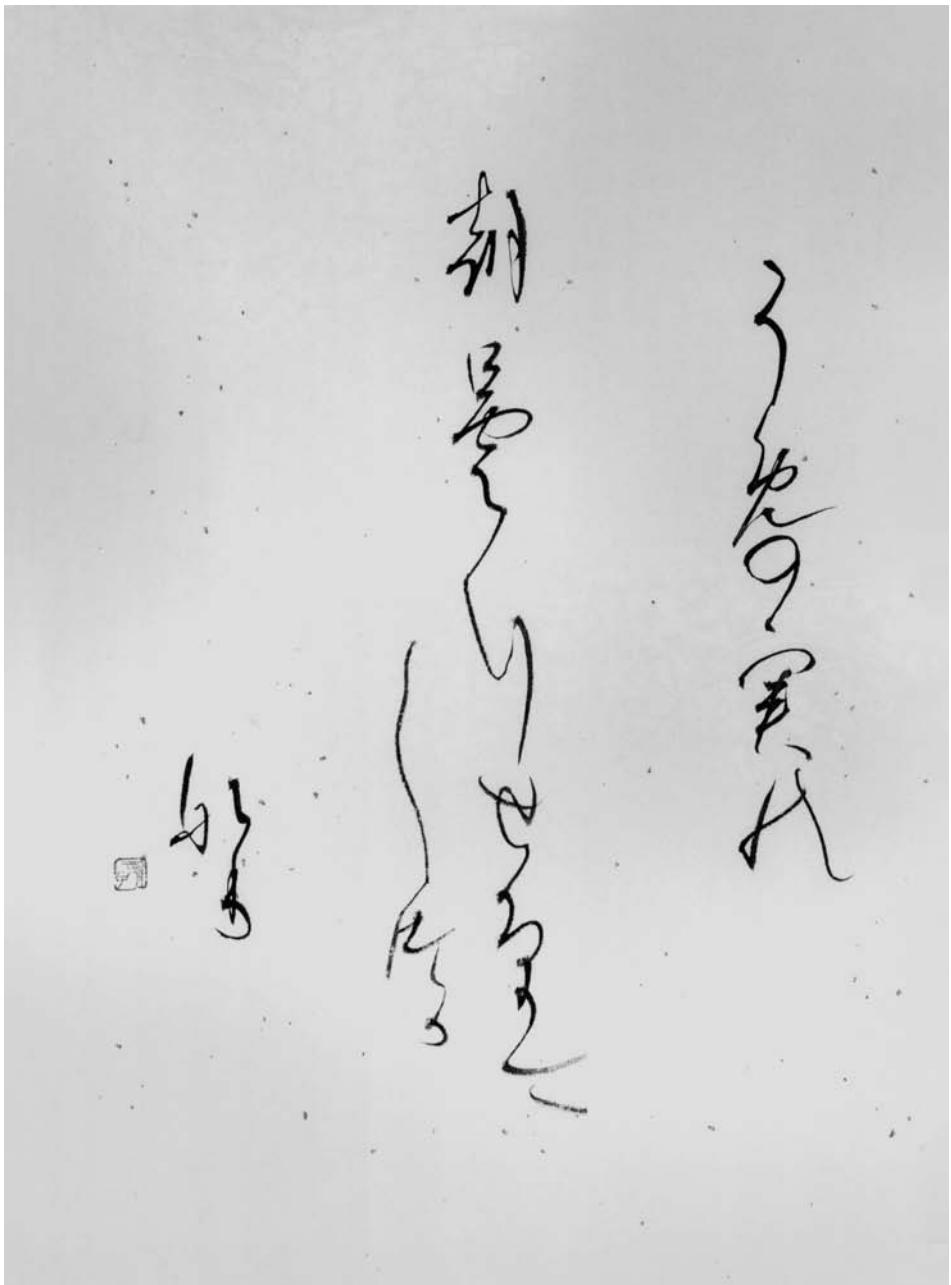
大辻多希子選書

習い方解説 (三)

大辻多希子

梅の実の朝暉りせるはしづかなり

(水原秋櫻子)



作品を書くとき、速い、遅いのリズムが大切です。始めから終わまで同じ速度で書いたのでは精彩に欠けます。横線や縦に長く伸びる線、大きく旋回する線、また小さな文字を連続して書くときなどでは緩急のリズムは違ってきます。横線はゆっくりと、縦線は直筆でいざぎよく、筆先が紙を切るように書くと運筆に変化が生まれます。小筆には弾力性があります。

上手にバネを使い、逆筆や転折の当たりを運ぶことで線に深みが出ます。作品を良く見て、ゆっくりのところ、早く書いているところを観察し、自分のリズムを生み出してください。

予告の課題に誤りがありました。
お詫び致します。

よみ方 うめ(免)の実の(能)朝暉りせるは(盤)しづ(徒)か(可)な(那)り(利)

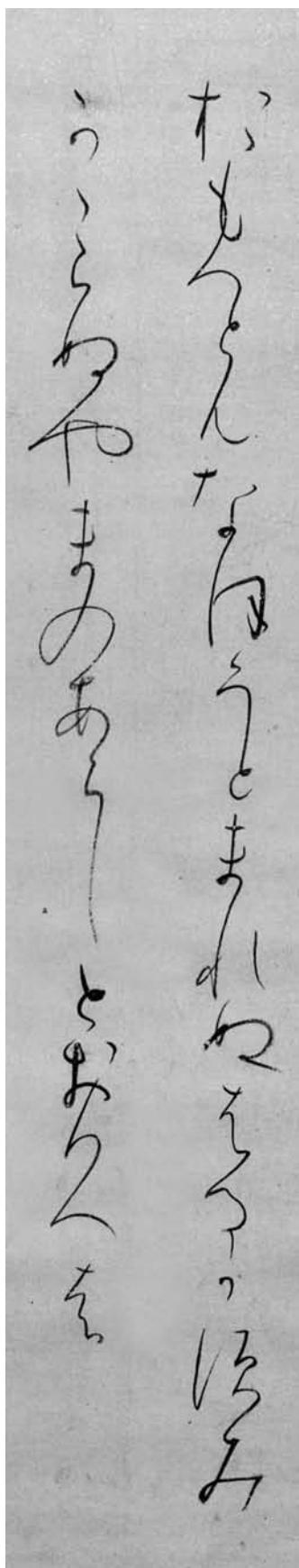
創作

かな規定 秀級以下【七月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

高野切 第三種

(掲載写真縮小93%)

掲載写真のうたを全體、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。



よみ方 お(於)もへども(元)なほ(保)うとまれぬは(者)るが(可)す(須)み
か(可)へらぬやまのあらじとおも(元)へば(者)

習い方解説 (三)

木村 東舟

かな条幅規定【七月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

木村 東舟選書

かな条幅規定

六月や峯に雲置く(見)あら(羅)しやま(万)
(松尾芭蕉)



六月の嵐山の空模様が目に浮かぶようです。俳句は近代以降のものなので、なるべく原文を生かしたいですが、あまりかけ離れない程度に、書きやすさや全体の景色などを考えながら、漢字をかなに換えたり、変体がなも使います。

「峯」の、左へ張り出した傘の下に、「あらしやま」を添わせるように書いてみました。

創作

よみ方 六月や峯に(一)雲置く(見)あら(羅)しやま(万)

*たて形式に限る

漢字条幅規定 初段以上 [七月十五日締めきり] 用紙 小画仙紙半切

村山元信選書

村山元信選書

習い方解説 (三)

村山元信

一
れ
護
田
排
山
送
青
來
言
伸
三

一水護田將綠繞

兩山排闥送青來

(一水田を護り、緑を将て焼り、兩山闥を排して青を送り来たる)

(王安石)

書体=自由

雨聲涼入硯

龍雲書

(申笏山)

書体=自由

漢字条幅規定 秀級以下 [七月十五日締めきり] 用紙 小画仙紙半切

前田龍雲選書

習い方解説 (三)

前田龍雲

唐代の書家・顏真卿の書風、中峰(蔵峰)・向勢の楷書で書いてみました。意味は「雨の音が聞こえ、心地よい涼しさが硯に吹き入る」です。これから日本は梅雨の季節。たまには窓の外を眺めて季節の移ろいを感じ、顏真卿の気持ちになつて、感情移入して書いてみてください。新しい筆法が見つかることもかもしれません。

今月の参考手本は行草、少し連綿も入れてみましたが、上級ですから、学書の進度や自らの感性で作品研究をすることが大切です。いろいろと挑戦してみてください。また、皆さんの作品を拝見しますと、落款が粗末なものが見かけられます。「落款で実力がわかる」と言われます。心して仕上げましょう。

雨聲涼入硯
(雨聲涼硯に入れる)

習い方解説 (三)

川島舟錦

みかんの花が咲いて
ちよいでの道丘の道
達かにみえる青い海
お舟が遠くかすんで

舟錦書

久々にペンを持つと力が入ってなかなか手に馴染んでくれません。ペン先も硬く感じられます。ペンの少しの弾力を利かせられるようになると、柔らかい線が出せるようになり、いつのまにか気持ちも落ち着きを取り戻します。

爽やかな季節の風を感じたり、心地よい音楽に気持ちをのせて、こんな時間の使い方もあったんだなあ…と、余裕をもって練習したいもの。

今月は「みかんの花咲く丘」の歌詞に、それぞれの思いを馳せながら…。

※落款を必ず入れる。
(自分の名前を入れること)

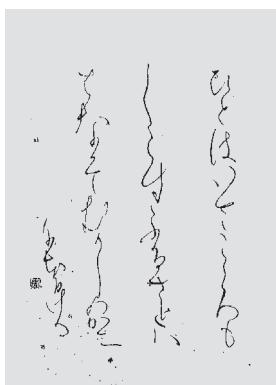
用紙=はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

今月の

ホープ作品 各部総評

No. 624



かな部 師範 後藤恵津子
手本をよく理解し、自分のリズムで書かれた佳品。筆が生きて活躍し、心の豊かさを見る思いです。

◎かな部総評 手本に則ったものは総じてよく出来ていましたが、小さい・細すぎる等、筆先のバネを利かせてみましょう。(洋子評)



前衛書部 特選 平塚 美保

温和な線で上部に余白をとりながら、全体を流動的に、渴筆で明るく構成している。

◎前衛書部総評 線美、墨美、流动美、余白美など、美を再確認し、さらなる追究を!(光昭評)



漢字条幅部 師範 田畠 明琴

明るく爽やかな行草表現。やや軽めの筆致がリズムを醸し出し、自然で無理のない作。



かな条幅部 師範 長谷川千峰

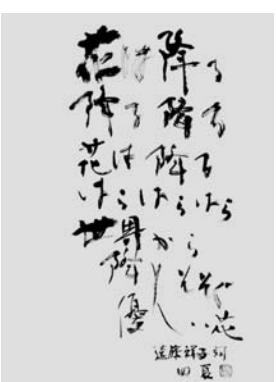
丁寧で控えめな運筆が典雅な趣となり美しい。この上は、大胆で意外性のある表現を望みます。

◎かな条幅部総評 字が大きすぎると立派な作頻出。総べてのバランス大切に。漢字重、変体がな徒、越の誤字自立ち残念。確認を。(明子評)

現代詩文書部 特選 伊藤 四夏

気負いしないリズムで運ばれた筆線には、筆者の心情が熱く伝わる。

◎現代詩文書部総評 詩情表現大切ではあるが過剰にならず、じっくり取り組んでほしい。(石雲評)



◎漢字条幅部総評 線質の冴えは運筆のリズム、墨量、墨色の工夫更に用紙の選択も影響してくる。筆も色々変えてみては。(大雲評)

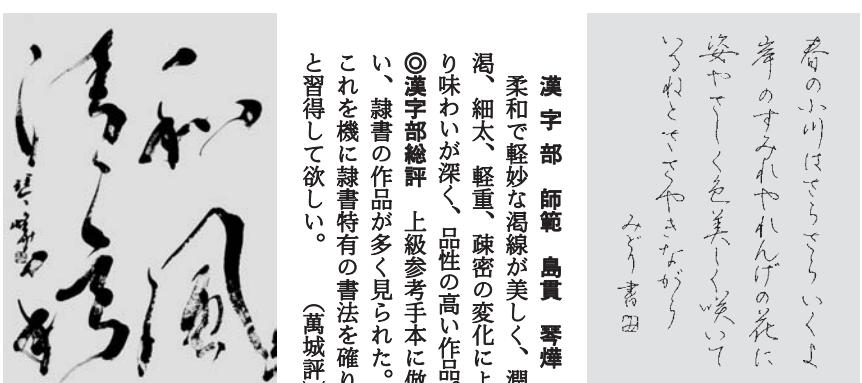


漢字部 師範 島貫 琴樟

柔和で軽妙な渴線が美しく、潤渴、細太、軽重、疎密の変化により味わいが深く、品性の高い作品。

◎漢字部総評 上級参考手本に倣い、隸書の作品が多く見られた。これを機に隸書特有の書法を確りと習得して欲しい。(萬城評)

ペン字部 師範 都丸みどり
穏やかな運筆と連綿の実力が発揮されており美しい。日頃の古典かなの研鑽の賜物ではと思う。◎ペン字部総評 布置と連綿が見事に調和した作品が多く拝見していく楽しさあり。やはり日頃のかなりの勉強の大切さ痛感。(和楓評)



今月の

特選 優秀作品研究部 別研究（特選）

現代詩文書

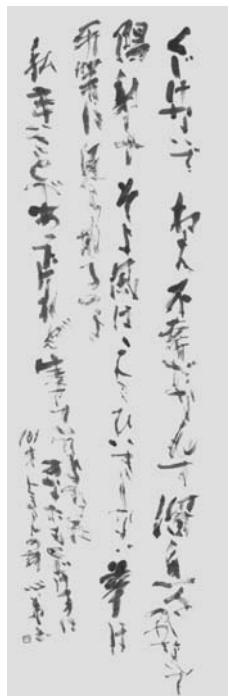
（うる）今関心華

「くじけないで」



西川藤象書

56×174cm



今関心華書

172×55cm

漢字
(もく)

西川藤象

「大堤曲」

◆動きある運筆のリズムが冴える作。横展開を自然にこなして安定感あり。墨色がやや甘いか。
（大雲評）

◆動きある運筆のリズムが冴える作。横展開を自然にこなして安定感あり。墨色がやや甘いか。
（明子評）

◆線が鋭く筆画よく立って動きがシャープである。文字の大小もよいが今一步流れがほしい氣もする。
（蒼玄評）



遊佐紅雅書

180×60cm

前衛書
(蓮紅)
遊佐紅雅
「安寧」

◆筆の開閉による動きのある線で全体をまとめて白黒が彩かである。
（蒼玄評）

◆かすれと細線で形取った手法で無理がなく表現されている。全体の形成として下に重味がかかった感。

◆墨の色と詩の持つ語りかけのリズムがぴったりと一致、楽しく拝見。筆に墨をふくませる呼吸に一考。
（倫子評）

◆淡々と書き込んで濃淡によるリズムを感じる。墨色はもう少し濃くにじみが出た方が深さが出るかも。
（蒼玄評）

◆百才の人の詩をすんなり受けとめての表現は作意がなく伝わり易い。五行の構成見事で魅力的な作。
（明子評）

（大雲評）

◆「一×六」の紙面に余すところなく展開し、大胆さと広がりある作。渴筆の柔らかさが魅力的。
（大雲評）

（明子評）

◆高度な技術と充実した精神に支えられた力作は、はつらつとして快い。上手すぎる様にならないで！
（蒼玄評）

（倫子評）

◆大胆な動きが、墨量の抑制で重くなく美しい。安寧。題はいつ、どのように付けられたのか知りたい。
（明子評）

（蒼玄評）

◆外側の細い線を整理すると柔らかさが出る。
（伦子评）

丁日性猶杞柳也義猶
子能順杞柳之性而以
如將戕賊杞柳而以為枯

拡大

竹浪叙舟書

65×112cm

◆鍾璠の風を見事に会得し、安定感と品位の高さを見せる。一貫した表現技術は普段からの努力の賜か。

(大雲評)

(明子評)

◆楷書の初期の暖かさを感じさせる作風で最後まで無理なくまとめた。渴筆が加わればリズムが表現できたか。(蒼玄評)

◆丹念な表現の一字ずつが暖かく語りかけてきます。豊かさが伝わるのは、作者の深さなのでしょう。

(明子評)

「孟子告子章句」
竹浪叙舟

漢字
(千葉)

篆刻
(大雲)
佐藤希雲
「易經」



36×23cm



拡大

岩田誠華臨
十月金紫光標大刑部尚書よ柱國
閔公顏真卿
英峰吉瀬彩雨

岩田誠華臨

35×135cm

◆筆の重味が線に微妙に影響を与えた長文全体に動きが生き生きと表現された。筆・墨・紙との一致か。

(明子評)

◆楷書の初期の暖かさを感じさせる作風で最後まで無理なくまとめた。渴筆が加わればリズムが表現できたか。(蒼玄評)

◆丹念な表現の一字ずつが暖かく語りかけてきます。豊かさが伝わるのは、作者の深さなのでしょう。

(明子評)

「臨争坐位文稿」
岩田誠華

臨書
(うる)

漢字
(小林翠芳)

（大雲評）
（明子評）

◆白文の構成は安定感あるが、刃意冴えほしい。朱文、封泥印のスタイルで成功している。

(大雲評)

◆どこまでも美しさの探究者ですね。その上、試みることに一切のためらいがなく頭が下がります。

(明子評)

岩田誠華臨
十月金紫光標大刑部尚書よ柱國
閔公顏真卿
英峰吉瀬彩雨

拡大

漢字
〔かな〕
千葉 小林 咲舟
安波 鈴木
陽陽 岩崎
書游 庄司
英峰 吉瀬
彩雨

23

創作の部(51点)	
前衛	14点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	29点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	26点
かな	3点
現代	18点
篆刻	1点
漢字	13点
かな	5点

漢字研究部 (争座位稿)

選評 大野祥雲

今月のホープ作品



桶 泉 雪 簾

漢字研究部 特選 横泉 雪算
「これを不朽と申します」。顔真卿が右衛門
射郭氏に対する抗議文の書き始めのところです。
真卿の落ち着いた気持ち、文字の大小、
巧みな用筆など、素晴らしい臨書です。潤滑
を生かし、落款で締めくくるあたり見事。

◎漢字研究部總評

●法帖が見にくいところもあってか、誤字になっている方がありました。疑問な文字は、

字典で調べましょう。●運筆が速く食い込みの足りない作品がありました。ゆっくり重厚沈着さもほしいです。線も深くなり、落ち着いてきます。●変化に富んだ字形は、用筆によって生まれます。ただ単に形を真似たのではなく生き生きした文字にはなりません。●上位の方は法帖の特性をよく掴み、表現技法に優れ、いい学書をされています。続けて下さい。

愛邑香蒼純龍

み初多京泉一
どり江佳子憲琴

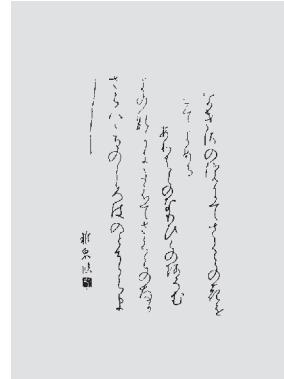
幸 狐 魯 紅 美 美
惠
雲 无 春 霞 子 代

祥彩梨郁琴蒼
泉炎秀子燁香

か な 研 究 部
(関戸本古今集)

選評 勝山初美

今月のホープ作品



高 橋 雅 泉

関戸 本の特徴であつ
ふれ、墨色・墨量・力
綿法を巧みにこなした
◎かな研究部總評

な研究部 特選 高橋 雅晃
、粘りと抑揚の変化に満ちあ
強さも申し分なく、特有の連
優れた作品となりました。

京千橋葉入 竜たこ彩澄こ澄土誠広玄上千”大有華正如や松生白光生泉如秀千和一樹大蓮幕京石”澄秀高五”澄華福八や陽泉かこ 春だ春氣和島穹泉葉”阪秋祥華月ま村大露風大会月歎葉平草原雲紅張橋習”春水崎葉”春祥山戸ま陽佳近今藤閑遜 加浜加大井宮飯西新熊尾中平小岩徳石加木金田鹿北渡千石永八長戸井中遊堀菊林吉松新宮門松森高岩山川市山岩藤野鷗鳴川鳥篠澤谷谷形尾山野根田川藤原子玉田又辺堀田木島村上村佐切池田丸行内脇浦田橋瀬崎川口崎元世八ひ内

や塙遊春玉昭竹 玉大 大筑善N戸大秀A高調澄高竜や幕う高生東蒼高玉英上芳東石松秀千高硯蒼紅土大昌祥大誠もく生大ま和雲光華美善 川雲 阪桂田H出阪政I陵北春崎富士ま張る弓陵太絶隔陵川峰泉蘭室翠村水葉苑阿茹阪茹大阪

入新宮田三齋若池高岡字横谷湊磯細金小中伊小小增生山武齋根泉伊北進丹石薄込石野吉大渡吉犬茂砂猪堀伊齋茂杉岸吉杉田
谷井下村嶋藤菜田橋野山知貝川岡口野藤路林田方田藤津水東村藤羽黒田山丸中瀬沢邊田飼木川又井藤田木田本田田中
か喜美裕妃恵美伊由美千
悠藤樂春敏つ矩尚久佐華蘭美美清靜萩美良千萩勢美明蕙翠飛龍京惠寿春春恩蕙喜彩淑信眞道翠洋理法紫綾真祥秋翠睦良
花雪翠華子え子古子え子卑舟子え子耀子え子吉子佐代竹子え子時委龍宝子え子台綠子え子雨江溢理石芳子扁子邦子蘭園蕙綾子

硯高蓮鬼京大若誉大澄大遊立祥秀前秀秀硯千千 大玉薰雲正高千石秀墨渡大東苑芭翠澄こ澄玉泉彩椿 澄童こ 童北生彩千
選水崎紅高橋雲葉田阪春阪雲精紫明橋明蕙水葉葉 “阪川書溪華真葉晋畠宜辺雲伯書玄春だ春藻会 翠”春泉だ 泉陸大 葉
187 北遊神堀高工小松深中西千山岩碓大阿佐紫足富藤今坂仲石岩村内筑真鑓黑山小富深梅宇荻辻岸平增宇鈴五高櫻吉新伊飯
名澤村佐田川武藤野佐澤村澤田田崎井森部々雲立田井井本西橋上田田井庭田柳本野澤堀原井原 田山田田木十山田條藤田
姓氏名略 草欣紅典魯玄山理白佳由彩白 洋 喜雅雅煌萬秋智花里游知郁笑皓宏 索竹真加喜清虹楠玉洋東つ華春利佳 花龍敏光
秋子雅子春城房繪鈴月美峰香京子弘代悠芳月誘彩子枝美漢子子華泉子ミミ藏葉紀都夫亮祥麗藻子子秀華子采泉 良四郎子彩